

死刑囚の「いのち」に触れてみませんか

街を行くみなさん。

きたる5月20日から24日、東京・新宿中央公園内の「区民ギャラリー」で、死刑囚による絵画展、『いのちの絵画展』が開催されます。

出展されている絵画は、75年に執行された一人を除いて、みんな死刑判決を受けて現在獄中にある人たちによるものです。もちろん、東京拘置所の在監者の作品もあります。昨年9月、高松から始まって、四国、姫路、仙台、京都、山形、奈良…と各地で次々に開催され、大きな反響をよびました。東京では今回初めて全作品が展示されます。

先生、新宿で、死刑囚による絵画展が開かれると聞いたのですが、死刑囚の人が獄中でどうやって描くんですか。



死刑囚も人間である以上、絵を描くこともできれば、小説を著したり、作曲をすることもできるはずなんだ。だけど、我が国では、画用紙や絵の具の使用はよほどのことがないと認められてはいないんだよ、多くは便箋の裏に、赤、黒のボールペンで描くのだが、とてもそのような限られた画材で描いたとは思えない、作品がそろっていると聞いている。



どんな人たちが企画したんですか。



最初は、絵画にも造詣のある四国高松のお坊さんが、死刑囚が折にふれて獄外に書き送るイラスト、ボールペン画に心を動かされたことがきっかけなんだ。一昨年から関係者によびかけて15人110点の絵が集められたんだ。



「死」と背中合わせになりながら日々を過ごしている死刑囚の人たち。いったいどんな絵を描くのでしょうか。



各地で寄せられたアンケートを讀んでみると、絵に凝縮された死刑囚からのメッセージにふれることは、私たちに「いのち」とは何か、「人間」とは何か、そして「死刑」とは何かを、あらためて考えさせずにはおかないようだ。絵のあたたかさ、優しさに触れた驚きも書かれているようだね。ここで話し合うよりも、まずは絵を観にいこうか。



この絵画展を東京で開こうとしている実行委員会の代表の方は、「絵画展を通して、だれの『いのち』もみな大切なのだということを、訴えたい」と言われています。あなたも、死刑囚からの「いのちのメッセージ」に触れてみませんか。

いのちの絵画展

1998年5月20日（水）～24日（日）

10:00～18:00

（初日は13:00から最終日は15:00迄）

新宿区立区民ギャラリー1階展示ホール

（入場無料）

主催:いのちの絵画展東京実行委員会

協力:アムネスティ・インターナショナル日本支部

お問い合わせ先：03-3894-7323

区民ギャラリー：03-3348-6277